

21世紀の酪農王国を目指して

次世代につなげたい



乳牛導入120周年記念酪農シンポジウム(同実行委員会主催)は11月29日、くずまき高原牧場もく・木ドームで開かれ、関係者など約140人が参加しました。

はじめに鈴木重男町長は「酪農のまちに懸ける夢・情熱を持って果敢に取り組んでこられた先人の方々のご労苦に、あらためて敬意と感謝を申し上げたい。皆さんとともに大きく発展する酪農の町に思いを馳せ、夢を共有する、大きく踏み出す、そういった機会になればうれしい」とあいさつしました。

第1部では、秋田県にかほ市の土田牧場の土田雄一場長による「牛に教えられる道標、今、その途中」と題して記念講演が行われました。

第2部のパネルディスカッションでは盛岡広域振興局の相津成蔵農政部長をコーディネ



土田牧場の土田雄一場長による記念講演

ネーターとして町内の酪農家4人が、現状や課題、将来について意見交換。「経営規模を拡大したいが、労働力や草地、デントコーン畑が足りない」「少人数で成り立つような経営、設備に重点を置きたい」「町ぐるみでコントラクター(飼料生産受託組織)に取り組み経営の効率化を」今考えることは、次世代の子どもたちのために考えることでもある」などの現状や提言が出されました。

葛巻町の120年という歳月は、先人の未来へのプレゼントだと思います。それを家宝として、ここに今日集まっている人たちの今の団結があるからこそ今に受け継いできていると思います。

時の流れとともに牛も動きます。生きていく不動の姿こそ真のトップブランドの礎になると思います。豊かな山野、住んでいる生産者、住民、それを取り持つ行政の一体感から生まれるあたたかい誇りの発信、とどまることのない発信をぜひ続けてほしい。地方で生まれた牛飼いのトップブランドとして、内から外へますます栄えることを祈念します。



久保 淳さん
37歳・山岸



藤森 康隆さん
32歳・浦子内

北海道の短大、十勝でのヘルパー、そしてデンマークへといろんなことを学び経験でき、良い思い出を作ることができました。親には本当に感謝しています。私の娘が昨年1年生で、くずまきテレビで将来の夢を「うしやさんになりたいです」と言っていて、娘の代まで良いかたちで引き継げたらなと思っています。

農地が点在していたものを、農業委員会を通じて集積し、利用しやすくなりました。酪農家ってというのは、横のつながりが強いと感じています。みんなで助け合って、ひとりではできないことも、みんなで力を合わせていきたい。今、これからも、厳しい時代ですがそうやって頑張っていけたらなと思っています。

酪農の未来を熱く語る後継者たち

私は苦しいとき周りの酪農家の皆さんに、すごく助けていただきました。今、自分が反対にそういう立場になっているのかなあと感じています。息子も酪農したい、盛農に行きたいと言います。そしてまたそこで仲間の息子さんにお世話になるのかなど。皆さんと一緒に頑張っていきたくらいなと思っています。

酪農王国って書くだけじゃなく、みんなの気持ちをひとつに、方向性をしっかり持ちながらこれからの21世紀の酪農っていうものをこの葛巻で見出したい。酪農後継者の会の会長をしていますがみんな同じ気持ちです。酪農家全員でというより、町全員で酪農・産業というものを守っていきたくらいなと思っています。



高宮 幸恵さん
35歳・中村



八幡 勝幸さん
45歳・星野

第8回
全日本ブラックアンド
ホワイトショウ

町畜産開発公社所有
「クズマキ ケネディ エボニー」号
第7部1席に



写真提供:(社)岩手県畜産協会

第8回全日本ブラック&ホワイトショウは、11月23日に静岡県御殿場市で行われ、町内からの4頭を含む204頭のホルスタイン種が出品されました。審査員は(株)十勝家畜人工授精所の山口寿典氏、アシスタント審査員に北海道岩見沢市の瀬能剛氏。審査の結果、町畜産開発公社所有の「クズマキ ケネディ エボニー」が、第7部で1席を獲得し、町内初の快挙を達成。乳牛導入120周年の記念すべき年に、大きな花を添えました。

▶町内の出品者 東館光夫(吉ヶ沢)、酒多利明(大沢)、町畜産開発公社(土谷川)、折元大樹(遠矢場)